

環境技術開発へ拠点

省エネ・EV軽量化など

11.5.16 日経新聞



大学が「環境」をテーマとした研究・開発拠点の運用を相次いで始めた。早稲田大学は半導体やIT（情報技術）機器の大幅な省エネにつながる技術、名古屋大学は電

気自動車（EV）向けの車体の軽量化技術などに取り組む。企業と協力を敷き、節電機器やエコーカーなど環境技術での大学の競争力を強化する。

早大が13日に運用を始めたのは「グリーン・コンピューティング・システム研究開発センター」。

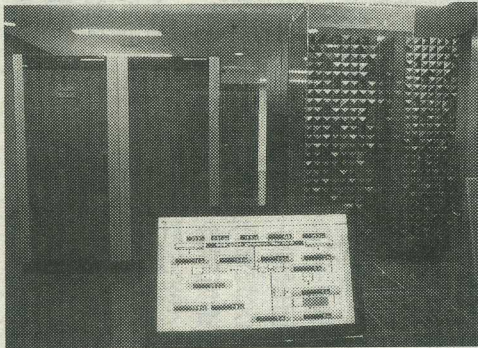
消費電力を現在の100分の1に抑える次世代プロセッサを開発し、スマートフォンやスーパーコンピュータ、車載用電子制御ユニットに搭載できるようにする。研究開発には、トヨタ自動車やルネサスエレクトロニクス、NECなど8社が参加する。参加企業との連携により5年後の実用化を見込む。

早大で同日開かれた記念シンポジウムで鎌田薫学長は「節電などで社会に最先端の研究が貢献できる。次世代の産業界を担う研究者も育成したい」と新拠点設立の抱負を語った。

名古屋大学は7月から「グリーンビークル材料研究開発拠点」を稼働させる。EV向けに車体の軽量化や、一度の充電で600キロ走行できる高性能な電池技術の開発に取り組む。希少金属を使わない排ガス浄化装置も開発する計画。トヨタ、スズキなどが協力予定。大学の学科でも環境を重視する動きがある。大阪産業大学は2012年度から「自然エネルギーコース」を開設する。太陽光や風力、水力などの自然エネルギーを重点的に学べ、初年度10人程度の人員を見込む。

早大、コア数最大級サーバ2台導入

低消費電力IT機器 研究拠点を公開



早稲田大学は低消費電力IT機器の研究拠点「グリーン・コンピューティング・システム研究開発センター」を公開した。コア（中核回路）数で世界最大級のサーバを2台導入し、低消費電力IT機器の技術開発を産学連携で進める。

日立製作所製の128コアのサーバと富士通製の256コアのサーバを導入。次世代マルチコア技術として期待されるメニーコア技術を使った低消費電力のプロセッサやサーバなどの研究開発を進める。

共同研究をするのは、トヨタ自動車、オリンパス、ルネサスエレクトロニクス、NEC、日立製作所、富士通、デンソー、三菱電機。

11.5.16 日経新聞